

単元を貫く問い 四万十市民として、持続可能な地域づくりを提案しよう

この単元と関連した領域の付いている力(◆)と内容(●)

【小学校第6学年まで】

- ◆自分たちの県の地理的環境の概要を理解している。また47都道府県の名称と位置を理解している。
- ◆我が国における自分たちの県の位置、県全体の地形や主な産業の分布、交通網や主な都市の位置などに着目して、県の様子を捉え、地理的環境の特色を考え、表現している。(以上4学年)
- ◆我が国の国土の地形や気候の概要を理解するとともに、人々は自然環境に適応して生活していることを理解している。
- ◆地形や気候などに着目して、国土の自然などの様子や自然環境から見て特色ある地域の人々の生活を捉え、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活の関連を考え、表現している。(以上5学年)

本単元の目標

人口や都市、村落を中核とした考察の仕方を基にして、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して、以下の資質・能力を身に付けることができるように指導する。

学びに向かう力、人間性等

- ・中国・四国地方について、人口や都市・村落を中核とした考察の仕方を基にして、持続可能な地域づくりを主体的に追究しようとする。
- ・中国・四国地方の様々な地域の特色を尊重し、「つながる」視点を持つようとする。

単元終了時のめざす生徒の姿

- ・四万十市民として、未来の四万十市が持続可能な地域である姿を、根拠を示しながら、提案している。
- ・それぞれの地域で行われている持続可能な地域づくりの取り組みの特色について理解し、そこで生じている課題を理解している。
- ・地域の広がりや地域内の結びつき、人々の対応などに着目し、持続可能な地域づくりについて多面的・多角的に考察し表現している。
- ・資料や情報を取捨選択したり、根拠を求めたり、批判的に思考したりしている。
- ・県内外の取り組みや課題について主体的に調べ、自分事として課題解決に取り組んでいる。

知識及び技能

- ・中国・四国地方の地域的特色や地域の課題を資料や地図などを活用し、その根拠を判断し、理解する。
- ・中国・四国地方の特色ある事象と関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解する。

思考力・判断力・表現力等

- ・人口や都市・村落に関わる様々な事象の成立条件を地域の広がりや地域内の結びつき、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。

この単元からつながっている領域の付けたい力(◆)と内容(●)

【第1学年】

- ◆人々の生活はその生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解している。
- ◆人々の生活の特色やその変容を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し表現している。

【第2学年】

- ◆少子高齢化の課題、国内の人口分布や過疎・過密問題などを基に、日本の人口に関する特色を理解している。
- ◆国内や日本と世界各地との交通・通信網の整備などを基に、物流や人々の往来などの国内各地の結びつきや日本と世界の結びつきの特色を理解している。

生徒の実態と指導観

本校社会科の課題は、基本的な事項を理解し関連づけて思考すること、複数の資料を活用して条件に沿ったまとめや表現をすること、課題解決に向けて既習事項を活用して予測したり考えをつないだりしていくことがあげられる。2年生は昨年度の標準学力調査や県版学力調査で基本的な知識理解が十分に定着しておらず、社会的事象の意味を正確に捉え切れていない傾向が見られた。また前述のように複数の資料を関連づけて思考したりすることに苦手意識が見られた。本単元においては、課題解決に向けて、必要な資料の取捨選択、資料の読み取り方、根拠を示して表現することなど、地理の学習を含め課題解決を主体的に行う基礎を固め、歴史・公民の学習で活かせる技能に高めていく。また、学んだ内容を行きつ戻りつしながら課題解決に活かし、さらに次の課題を導き出せるように授業を進めていきたい。

社会的活動

人口に関わる課題に着目し、課題を把握し、解決すべき課題を設定して、課題を追究したり解決したりする 活動

調査や諸資料から必要な情報を取捨選択し、調べ、まとめる 活動

意見交流や情報交換を通して、多面的・多角的に考察し、表現する 活動

課題把握

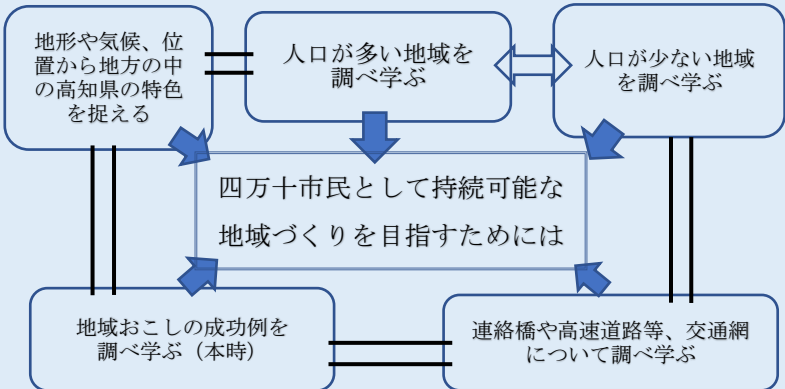
【1時間】

〈持続可能な社会とはどんな社会かを考え、課題を把握する。〉
 学校に通える、病院に行ける、部活動ができる、買い物ができる、友人と遊べる、仕事に就ける、
 「40年後、四万十市では今と同じ生活ができるのだろうか?」
 班でjamボードに意見を書く
 できる:人口は減るだろうが、市がなくなるわけではないので。
 できない:人口が減り、スーパーが減る。病院も少なくなる、仕事も減る、生徒数が減少する。
 「本当に人口は減るのだろうか、根拠を示そう」:
 クロムブック等で調べる人口が減った市の紹介 【夕張市】
 「四万十市は何をすべきだろうか」
 □単元を貫く問い(課題把握)
 「四万十市民として、持続可能な地域づくりを提案しよう」
 ○ワークシートに今の考えを記述する

課題追究

【5時間】(本時4/5)

〈地域の人口の分布や動態、都市・村落の立地や機能に関する特色ある事象に着目して、そこに暮らす人々の生活・文化や産業などの事象と関連付け、人口や都市・村落が地域の人々の生活・文化や産業などと深い関係を持っていることや、過疎・過密問題の解決が地域の課題となることについて考察する〉
 資料の取捨選択、活用の方法や読み取りなど、既習事項を次の学習へ活かす。



※資料活用から自分の意見を形成し、他者との意見交換により、納得解や妥当な解を導き出すことを繰り返す。
 ※資料の取捨選択や資料の関連付けを行うことで、多面的・多角的に考察し表現する。

課題解決

【1時間】

〈課題追究で考察したことを基に、1時間目に提案した持続可能な地域づくりについて批判的に考察する。〉
 (めあて)聞き手が自分のプランに対して納得できるように工夫しよう。
 ○課題追究で学んだことを活用し、自分の提言が実現可能なものであるか、現在の施策や予算を根拠に効果的なものであるかを判断し、表現する。
 ○四万十市の持つ課題や特徴にあった地域づくりを考え、当初作った提言を批判的に考察する。
 ○グループ発表で仲間からの意見を自分の提言の参考にする。

【1時間】

単元のまとめ学習の振り返り
 〈単元を貫く問いについてまとめ、発表し、意見を聞き、改善する〉
 (めあて)四万十市民として持続可能な地域づくりを提案しよう
 ○学びの中から四万十市民として提案する持続可能な地域づくりを構成することができている。
 ○実現するために必要な方法や販売方法、設備など、間接的に必要な事象について調べ、まとめている。
 ○自分の提案の光と影について、考察し表現している。
 生徒の意見
 ・ぶしゆかんを使った六次産業化を目指し、収入を作る。そのために中国・四国地方の各県や大都市にアンテナショップを作るとともに、ネット販売のノウハウを共有する。(他県の成功事例を調べ、参考にする)
 ・観光地として売り出すために、高速道路を充実させる。(高速道路の光と影を調べ、意見として根拠をもとに発表している。)

評価規準

【知・技】

- ・資料を選択したり、読み取ったり、活用の方法を身に付けている。

【主】

- ・四万十市の状況を他の都道府県と比較して、地元の将来を真剣に考え、意見を出している。

【知・技】

- ・人口ピラミッドなど必要な資料を取捨選択し、中国・四国地方の特色を適切に読み取り、地形や位置、産業や交通などの事象と関連づけて、それぞれの地域の課題などを理解している。

【思・判・表】

- ・各地域で行われている事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結びつき、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて、持続可能な地域づくりがどのように行われているか、多面的・多角的に考察し、表現している。

【思・判・表】

- ・既習事項から持続可能性を阻んでいる事象を判断し、解決する手段を施策や先進事例をもとに、高知県の地域的特色と合わせ、必要な施設や課題となることを含め提案している。

【主】

- ・持続可能な地域づくりに必要なことを考え伝え合い、意見を基に自分たちの考えを再構築している。

四万十市の住人として提案する持続可能な地域づくりについて、他の地域とのつながりや地域内の結びつき、自然環境など相互依存関係に関わる視点に着目して、多面的・多角的に考察している。

様々な資料を取捨選択、活用、関連付けて、根拠を示しながら四万十市の住民として考える持続可能な地域づくりを構想している。

見方・考え方を働かせている生徒の姿